

親潮

第317号
令和3年度 第1号

OYASHIO

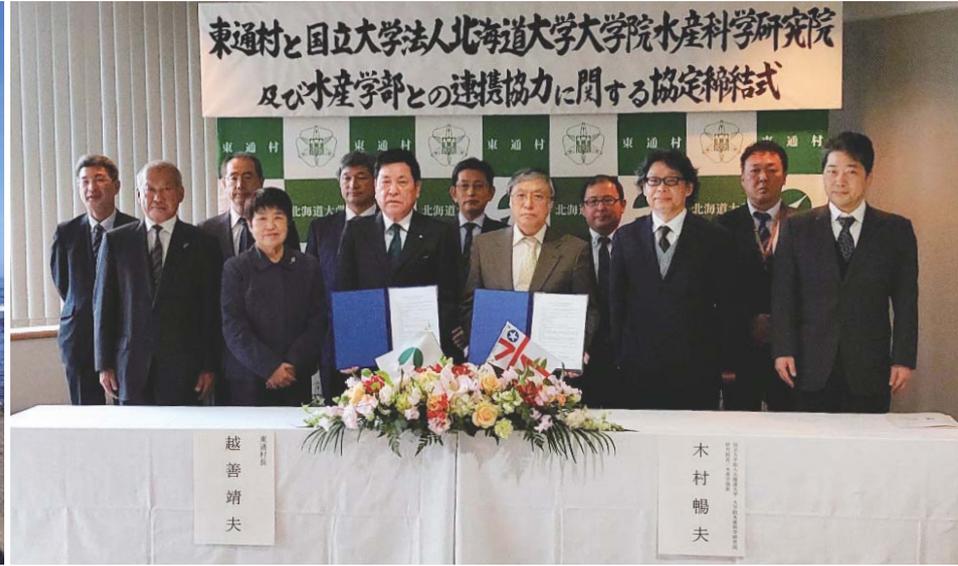
北水同窓会誌

2021

317

No.1

北水同窓会のEメールアドレスが変更になりました | ホームページをリニューアルしました
hokusuialumni@gmail.com | <http://hokusui.net>



特集 北水の今

水産科学研究所と青森県東通村が連携協定を締結

- 幹事長あいさつ
- 会員の受賞
- 退職教員あいさつ
- 定期総会報告
- 書評
- 寄稿
- ほか

親潮

第 317 号
令和 3 年度 第 1 号
OYASHIO

CONTENTS

幹事長ごあいさつ 3

特集 北水の今

**水産科学研究院と青森県東通村が
連携協定を締結** 5

高津 哲也(昭63卒)

北海道大学ホームカミングデー 2021
水産学部卒業生・在校生のつどいのご案内 7

会員の受賞 8

鈴木 敏之氏(昭63化) / 本田 真己氏(平20資)

退職教員あいさつ 10

宮澤 晴彦氏(昭53卒)

定期総会報告 11

書評 15

池田 勉(昭43卒)

寄稿 16

宮澤 晴彦(昭53卒)

学位取得者 19

卒業生の就職先 19

会員の異動 20

会員死亡通知 21

親潮投稿規定・編集後記 22

親潮317 表紙写真の説明

左上) 白糠漁港での視察の様子

左下) 老部川内水面でのサクラマス養殖

右上) 連携協定締結式

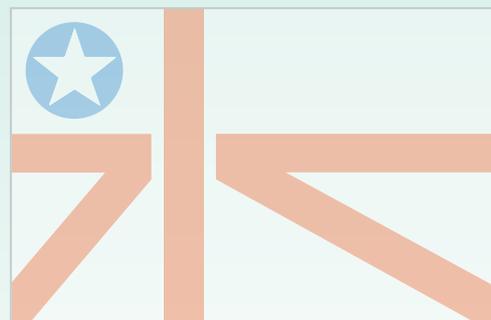
右下) 東通村あわび種苗センターで飼育中のアワビ





幹事長ごあいさつ

北水同窓会幹事長
高津 哲也(昭63ギ)



令和3年6月に、前任の宮澤晴彦先生より幹事長を仰せつかりました。平成4年に水産学部に奉職以来、本同窓会では主に会計幹事を務めさせていただきました。これまでの大きな仕事としては、会費の3,000円から4,000円への値上げ提案や、ゆうちょ口座からの自動払込や、コンビニからの会費納入方法の導入、おしよ丸V世就航記念式典の準備などです。そして今回、本同窓会100回記念の定期総会を、来年令和4年7月末頃、うしお丸III世就航と同時に実施することになり、大役を十分こなせるか、大変不安ではありますが、コロナの収束を願いつつ準備を進めさせていただきます。

【北水同窓会は北大で1番強固な同窓会組織】

皆様方のご支援のおかげで北水同窓会は現在、北海道大学の中でも確固たる地位を獲得しており、全学の連合同窓会組織「校友会エルム」を凌ぐ組織力と、北大の事務方各位から評価されています。特に、いざとなったらすぐに連絡がつく、頼みごとをしても断らない、良い意味での「無理が通れば道理は引込む」人脈、何とかしてくれる、とのこと。また就職活動を終えた在校生からは、就職活動に積極的に相談に乗ってくれる、「うちの会社への就職はやめたといった方が良い」などの過剰に親切な情報まで教えてくれると、大評判です。当方のところにも就職相談の学生が良く訪れますが、「同窓会名簿を見て、関心のある会社のOGOBに連絡してみたら?みんな喜んで相談に乗ってくれるよ。でも内定とれたら断りにくなるけどね」といえば、大体内定が獲れてそのまま就職できま

す。従いまして北大の中でも就職内定率がダントツに高く、早期に100%近くに達します。最後まで就職を決めていない学生は、大抵公務員試験再挑戦学生だけです。

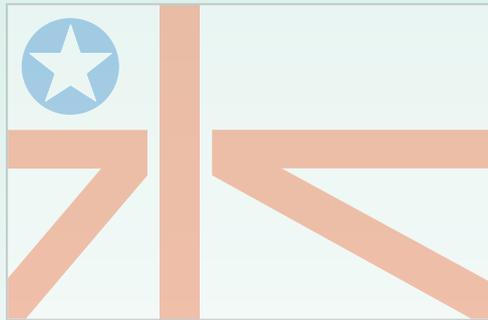
こういった成果は、100%、OGOBの皆様方のおかげです。私はこのような学部で教員を務めさせていただき、またOBの一人として、日々誇らしい気分させていただいております。このような人脈、ネットワークはこれからも維持・発展させていかなければと、堅くチイワシ思っております。

【え?北水同窓会のSNSをまだフォローされていないのですか?】

2012年(平成24年)には、同窓会ネットワークの強化と会費納入率の向上を目的として、SNSであるツイッター(@hokusuiD)とFacebook(北水同窓会)を開始し、現在ではFacebookに連携したインスタグラム(hokusui_dousoukai)も開設しています。これらのアカウントでは、函館キャンパスの最新情報をできるだけ週1回以上発信しています。本原稿を執筆時点で、SNSであるツイッターは15~19歳の約85%がアカウントを所有し、60~69歳でも約40%の方が利用していますので、今やテレビや新聞などのメディアを超える情報源になりました。

【北水同窓会SNSはネタ大きめで、ウザさ満点】

北水同窓会のこれらのアカウントの発信者の個人名は、あえて伏せられています。発信者の属人性を排除することで、なるべく客観性を担保し、OGOBの皆



様や、同窓生ではない方でも、気軽にお立ち寄りいただけることを目指しているためです。また、ツイッターは利用者の平均年齢が相対的に若いため、函館キャンパスからの発信だけではなく、OJOBの皆様のご活躍や、水産業や水産科学に関する日々の進展をリツイート(再発信)することで、在校生や北大水産学部を目指す高校生から、「役に立つニュースサイト」との評価を得ることを目指しています。ツイッターは自らの日常を発信することよりもむしろ、多くの利用者が最新のニュース(ネタ)を取得することを目的として利用されています。

よく、SNSを利用されていない方々から、「ツイッターってどうやってやるの?」と尋ねられますが、当方は「SNSはやるもんじゃなくて、テレビや新聞みたいな“遅い”メディアじゃなくて、最新のニュースをいち早く獲得するためのメディアですよ。新聞や本、そして本同窓会の“親潮”は、じっくり見るのに堪える造詣の深い情報源に変わらなないと生き残れないと思っています」と答えています。SNSは、すぐに「炎上」と評され、個人情報やタダ洩れするメディアと恐れている方もおられるとは思いますが、情報を見るだけなら個人情報はほとんど漏れません。情報収集のためだけにSNSアカウントを所持している人が約半数を占めると言われています。また、私のように教員の立場としては、在校生のアカウントの発信を見ることで、何を面白く感じているのか、何が気に食わないのか、すぐにわかることがメリットです。

従いまして、OJOBの皆様も是非SNSアカウントを取得し、まだ見たことがない方は北水同窓会の

SNS情報をご覧になってください。70歳代以上の方々からは、やり方がわからないとおっしゃる方もいらっしゃるかもしれませんが、お近くの同期の方や、OJOBにお声がけいただいてアカウントを開設し、最新の函館キャンパスの情報を、是非ともご覧ください。

【水産学部は北大フロンティア基金でも1位を目指します!】

また本年10月には、北大フロンティア基金として、「水産学部学生応援プロジェクト」が立ち上がります。本同窓会はこの寄付サイトを応援しても一銭の収入にはなりません、同窓会への寄付よりも税制上非常に有利になっております。また従来の北大フロンティア基金では、部局によっては寄付が2年で1件しかない、という悲惨な部局もあると聞きます。水産学部がそれでは困ります。北水同窓会としては、「常に水産学部はナンバーワンを目指すべき」と考え、応援してゆきたいです。応援の形として、今回パンフレットを同封させていただきました。またほかの部局にはない、欲しくなるかもしれない返礼品のアイデアも事務方に提供させていただきました。寄付は1万円からですが、是非ご協力いただき、北大で1番の、いや世界で1番の水産系同窓会組織であること見せつけてやりましょう。是非ご協力お願いいたします。

【同窓会会費納入は回避しないで下さい】

毎年のことで大変恐縮ですが、本同窓会の会費の納入もお忘れなくお願いいたします。

水産科学研究院と青森県東通村が 連携協定を締結

高津 哲也(昭63ギ)

北大水産科学研究院は、青森県東通村と、学術・教育・文化及び地域振興に関する連携協定を令和2年11月26日(木)に締結しました。



2019年11月21日、東通村あおび種苗センター視察中の北大教員団(浦先生)

青森県東通村は、尻屋崎を含む下北半島の東側に位置する南北に長い村で、下北半島の斧頭から柄肩にあたる場所を占めています。海岸線は津軽海峡の一部から太平洋まで65kmと長く、水産業が主要基幹産業で、畜産を含む農業がそれに続く村です。平成27年(2015年)に私が東通村から「東通村まち・ひと・しごと創成戦略会議本部有識者会議委員」に委嘱されたことから水産科学研究院との交流が始まりました。

東通村も日本各地の地方市町村と同様に、人口の減少が著しく、また水揚げの主力だったスルメイカの漁獲量減少に苦しんでいます。また近年の日本海の高水温現象の影響でサケ・マス漁も不

振で、温帯性のアカカマスの漁獲量が増えていますが価格が安い状況です。さらに、地理的に首都圏から遠いことによる輸送コストが、収益の低下を招いています。

沿岸は砂や礫などの底質が多く、アワビはそこそこ漁獲されていますが、ここでも磯焼けが進行しており、海藻類やウニ類の漁獲量は低迷しています。現地の漁業者の皆さんにお話を伺うと、平均年齢の高齢化もあって、海藻類の再生を望む声が最も多く、次いで東通村の特産となる品種の発見・開発が求められているようです。

一方東通村の農業は最近、北大農学部出身で弘前大学の前田智雄教授(実は同じアメフト部の

OBで、私の後輩にあたります)が、同様に東通村と連携協定を結び、ヤマセがもたらす夏の冷涼な気候を活かした、蔬菜類・果実類の改良・ブランド化に取り組み、一步先をゆく成果を上げています。例えば日本では周年イチゴを食べることができますが、これは夏季に北海道と東通村で栽培されるハウス栽培のイチゴが支えており、加えてブルーベリー類の作付面積増加と、厳格な品種区分の開始が、高収益化と新規就農者の流入に貢献しています。さらにほうれん草を出荷前にハウスを空けて冷涼にすることで、糖度を増やすアイデアを提案し、「寒立菜(尻屋崎の半野生馬である寒立馬にちなむネーミング)」の増産という成果まで上げています。私は先輩として、これに勝る“青果”を上げなくてはなりません。

現在、本連携を起爆剤として、北大水産科学研究院の各教員のお力を借りて、形のある成果を模索しています。しかし具体的なアイデアはまだです。

一方、大学院生や学生の研究を、東通村で展開することで、ボトムアップ型の人的交流を促進し、最終的には東通村から北大水産学部を目指

2019年11月21日、東通村尻勞(しつかり)沿岸で海藻類繁茂状況を視察(安井先生)



す学生を育てることをもくろんでいます。東通村は現在、幼稚園、小学校、中学校を1か所に集約したため、「幼小中一貫教育」が実現しています。従いましてこの一貫教育に東通村独自の水産業の魅力を組み込んだ“調べ学習”を展開することで、後継者の育成に貢献したいと考えています。また東通村議会では、廃校となった小学校の建物の有効利用法についても活発に議論しており、水産にかかわる研究あるいは研修施設に転換できないか、相談を持ち掛けられています。

今後、一定の成果が出ましたら、この“親潮”の誌面上でご紹介したいと思います。



水産学部卒業生・在校生のつどい

講演会 水産学徒の行政遍歴

～水産改革と浜の未来～

講師 **長谷 成人氏** ((一財)東京水産振興会理事)

日時 **令和3年9月25日(土) 14:00～15:30**

場所 **函館キャンパス講義棟 大講義室**

(参加申込不要。対面もしくはオンライン参加を選択。オンラインの参加方法は下記HPにてご覧ください。)



profile プロフィール

1957年生まれ。

1976年都立武蔵高校卒北大水産学部入学。

1981年水産増殖学科卒水産庁入庁。資源管理推進室長、漁業保険管理官、漁業調整課長、資源管理部審議官、増殖推進部長、次長等を経て2017年長官。

ロシア、中国、韓国等との漁業交渉で政府代表。外務省(無償資金協力課)、北太平洋溯河性魚類委員会(カナダ国バンクーバー市・暫定事務局長)、宮崎県(漁政課長)等に出向。

2019年退職。現在(一財)東京水産振興会理事。

講演会場案内図



(函館キャンパス <https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/fish/access/>)

講演会終了後、北水同窓会100周年記念総会に向けた準備状況報告・検討会を行います。

HP(<https://www.hokudai.ac.jp/pr/alumni/home/>)にて情報を更新しています。ご覧下さい。

会員の受賞

CONGRATULATIONS ON WINNING



鈴木 敏之 氏(昭63化) 2020年度 日本分析化学会 技術功績賞受賞

板橋 豊(昭50化)

鈴木敏之氏(国立研究開発法人 水産研究教育機構水産技術研究所環境・応用部門長)に、2020年度日本分析化学会技術功績賞が授与されました。

令和2年9月に開催された日本分析化学会第69年会において、鈴木氏は「下痢性貝毒機器分析法の普及と開発」と題する受賞講演を行い、これまでに同氏が研究してきた下痢性貝毒の機器分析法や標準物質の開発について発表されました。今回はコロナ禍のためWeb講演でしたが、多くの関係者が出席した盛会の中で研究の紹介が行われました。

鈴木氏は、水産化学科魚油化学講座を昭和63年に卒業後、同大学院に進学、博士後期課程修了後は農林水産省入省、水産庁東北区水産研究所に奉職されました。平成20年に、中央水産研究所に異動になり、現在は国立研究開発法人 水産研究教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門長の要職にあります。この間、同氏はCawthron Institute (ニュージーランド)、National Research Council Canada(カナダ)、Marine Institute(アイルランド)、Fish Inspection and Quality Control Division、Department of Fisheries(タイ国)の客員研究員や客員教授を歴任し、また、天然資源の開発利用に関

する日米会議「有毒微生物専門部会」、厚生労働省薬事食品衛生審議会委員、内閣府食品安全委員会専門調査委員を務めるなど国内外で活躍されています。また現在は、東京海洋大学と北里大学の客員教授として学生、院生の教育にも力を注いでおります。鈴木氏の研究は、長年利用されてきた下痢性貝毒の公定法であるマウス毒性試験が機器分析法へ移行する際に大いに貢献し、平成19年には、「貝毒の精密分析法及び二枚貝の毒化機構の研究」が評価され、日本水産学会から「平成18年度水産学進歩賞」を受賞しています。また、機器分析法の導入により、青森県のホタテガイ産業は大いに活性化し、この功績により、平成29年青森県漁連など青森県漁業者3団体から感謝状が授与されています。今回の受賞も、鈴木氏のこうした基礎研究が産業に貢献した好例として高く評価されたものです。貝毒研究者として、また、水産研究教育機構の研究部門長として、今後益々の活躍が期待されます。

CONGRATULATIONS ON WINNING



本田 真己 氏(平20資) 第55回(令和2年度) 日本油化学会進歩賞受賞

板橋 豊(昭50化)

本田真己氏は、「油脂成分の異性体分析ならびに異性化触媒に関する研究」が評価され、第55回(令和2年度)日本油化学会進歩賞を受賞しました。日本油化学会は、油脂・脂質、界面活性剤及びそれらの関連物質に関する科学と技術の進歩を図り、産業の発展及び生活と健康の向上に寄与することを目的として、昭和26年に設立された歴史のある学会です。毎年、この分野で顕著な業績を挙げた若手研究者に進歩賞が授与されております。

本田氏は、平成20年に水産学部海洋生物資源化学科生物分析化学研究室(旧魚油化学講座)を卒業後、大学院水産科学院海洋応用生命科学専攻博士前期課程を修了、その後、カゴメ株式会社に就職し、研究所ならびに工場で6年間過ごしました。カゴメ株式会社在籍中に博士号を取得し、名古屋大学全学技術センター技術職員を経て、平成30年に名城大学理工学部にて助教として着任され、現在に至っております。

本田氏は、クロマトグラフィーを駆使して、これまで分離が困難であった細胞膜脂質(グリセロ脂質)の位置異性体やカロテノイドのシス-トランス異性体を明瞭に分離できる技術を開発しました。そして、こ

れらの分析技術を用いて、植物や食品中に存在する油脂成分の異性体とその存在比率を厳密に評価し、食品の調理や加工工程で起こる異性化反応のメカニズムを明らかにしました。また、天然のカロテノイド(トランス型)を効率的にシス型へ変換する有機分子触媒を食材から見出し、カロテノイドの生体内への吸収性ならびに蓄積性がトランス型よりシス型の方が高いことを明らかにしました。これらの研究成果は、オレオサイエンス分野での分析並びに食品の科学と産業の発展に大きく貢献するものと評価され、本賞の受賞に至りました。学部関係者では、平成18年に細川雅史氏(平2食、現北海道大学大学院水産科学研究院教授)、平成25年に前多隼人氏(平15資、現弘前大学農学生命科学部准教授)に次ぐ3人目の受賞であり、水産学部がオレオサイエンス分野の発展に寄与する多くの人材を輩出してきたことは、特筆すべきことかと思えます。今秋開催される令和3年度日本油化学会第60回年会(9月6日~11日)において、受賞記念講演が執り行われる予定です。本田真己氏の益々の活躍が期待されます。

退職にあたって

宮澤 晴彦(昭53ギ)



本年3月末をもちまして無事退職することができました。北大に入学してから実に半世紀に近い、47年という月日が流れたわけですが、今はあっといふ間だったと感じています。しかし、振り返ると実に様々な経験を重ねてきたように思います。そして数えきれない方々と出会い、多くの方々に支えられ、励まされてきました。とりわけ、恩師の鈴木旭、増田洋両先生、東京水産大学時代の長谷川彰、大海原宏両先生には格別のご指導を賜りました。まずは、私を支えてくださった多くの皆様(もちろん家族も含めて)に、感謝申し上げたいと思います。

私が入学した1974年は、公害問題や赤潮被害が沿岸漁業に大きな影響を与え、いわゆる200カイリ問題が沖合・遠洋漁業に暗雲を落としつつある状況でした。そのような中、学友と共に「水産放浪会」という自主的勉強会を作り、手探りで調査活動や大学祭でのシンポジウム企画等を実施したことを懐かしく思い出します。その大学祭でのシンポジウムに、講師として手弁当で参加してくれたのが恩師の1人、増田洋先生だったということにも、今思えば深い縁を感じています。

私は高校生の頃から、漁業や農林業に従事する人々の営みに関心を持ち、それに関する経営、経済、社会、政策等を学びたいと考えていました。そのため、学部に移行してからは水産経営の研究室に入入りし、4年生の資本論ゼミにも2年生の頃から参加させてもらいました。学部卒業後、1年間、農学部農業経済学科の研究生を1年間経験したことも、私にとっては大きな財産を得るものとなりました。当時の農経に所属する院生諸兄は多士済々で、多くの方がその後大学教員として活躍され、今日に至るまで私に刺激と励ましを与え続けてくれました。また、大学院水産学研究科に進学してからは、院生協議会等を通じて先輩諸兄から科学者・研究者の基本的な心構えを学ぶとともに、恩師の鈴木・増田両先生には厳しい議論を重ねながら、漁業経済学会大会シンポジウムの講演者としてデビューする機会を与えて頂きました。修士課程で籍を置かせて頂いた漁具設計学講座の皆さんとも、今に続く親交を育むことができました。当時、漁具設計学講座の教授であった佐藤修先生には、私の結婚式で媒酌の労を取って頂き、お亡くなりになるまで家族ぐるみのお付き合いをさせて頂きました。その他、学生時代に受

けた学恩に関することについては、語りつくせないものがあります。

大学院卒業後、1987年12月に北大水産学部の助手として採用された後、私は1989年1月に東京水産大学・資源管理学科(新設)の助教授として転出することになります。この時は助手になってから僅か1年2か月での移籍だったので、かなり悩んだ末の決断でしたが、東水大に移ったことは私の研究の幅を大きく広げるものになったと思っています。特に水産政策に関与する仕事が増えたことと、全国各地に調査範囲が広がったことが大きな収穫でした。

しかし、原点はやはり北海道における調査・研究にあったと思います。足掛け13年の東京生活を経て、2001年12月に函館に戻ってからは、道内漁村での調査・研究を数多く行う機会を得ました。北海道の漁村における漁業者の自主的漁場・資源管理について、その成立条件や社会・経済的意義を理論的・実証的に検証するというのが私の原点ともいべきメインテーマです。そして、自主的漁場・資源管理を通じて、地域漁業の次世代の担い手を育成することも付随する重要なテーマとなりました。北大に戻ってきたことにより、私は自分にとって最も大切な研究フィールドを得たといえます。

北大に戻ってからの20年間で、もう一つ、自分にとって掛け替えのないものとなったのは、多くの学生たちとの触れ合いでした。卒業研究や就職活動で学生、院生たちは誰もが壁にぶつかりますが、共に学び、共に悩み、毎年苦労しながら一緒に壁を乗り越えてきました。研究室で皆と一緒に食事することも沢山ありましたし、皆で温泉に行ったり、スキーに行ったり、わが家でゼミ合宿をすることもありました。学生たちを指導する中で、私も彼らから多くのエネルギーをもらっていた気がします。今、全国各地、あるいは海外で活躍する門下生たちとのつながりは、これからも私のエネルギー源の1つとしてあり続けてくれると思います。

以上、退職に当たり、私自身の歩みを簡単に振り返ってみました。もちろん、これからも先述のメインテーマに関する研究を色々な形で続けていきたいと考えています。

最後にこの場をお借りして、これからの北水を抱っていかれる皆様に一言。それは社会・経済学領域の維持・拡充をお願いしたいということです。水産科学が水産業という産業に関わる学問領域である以上、水産業の存続が前提となること、言うまでもありません。そして、水産業の存続とは、その担い手である水産経営の存続であることを考えると、水産経営に関する社会・経済学的研究は不可欠です。蛇足的発言で恐縮ですが、ご高配方、宜しく申し上げます。

北水同窓会定期総会報告

北水同窓会総会(書面審査)の報告とお礼

- 開催日時:令和3年5月17日(月)~5月31日(月)
- 書面審査

■総会(学内役員会)次第

1.開会の辞

副幹事長 向井 徹(昭61ギ)

2.議長選出

3.議案第1号

令和2年度事業経過報告および
会計決算報告

(1)一般経過報告

幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)

(2)庶務部報告(資料1)

庶務部 高橋 勇樹(平22海資)

(3)編集部報告(資料2)

編集部 中屋 光裕(平11生)

(4)組織部報告(資料3)

組織部 今村 央(昭63ゾ)

(5)会計部報告(資料4)

会計部 東藤 孝(平2ゾ)

(6)会計監査報告

監事 関 秀司(昭57化)

4.議案第2号

令和3年度事業計画および予算案

(1)役員改選案(資料5)

庶務部 高橋 勇樹(平22海資)

(2)事業計画案

幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)

(3)次回総会延期と第100回(令和3年度)定期総会開催(函館)について

幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)

(4)令和3年度予算案

1.会計部予算案(資料6)

会計部 東藤 孝(平2ゾ)

2.編集部予算案(資料7)

編集部 中屋 光裕(平11生)

3.組織部予算案(資料8)

組織部 今村 央(昭63ゾ)

5.その他

6.閉会の辞

副幹事長 向井 徹(昭61ギ)

■令和2年度 庶務部報告(資料1)

1)新入会員数

海洋生物科学科	51名
海洋資源科学科	46名
増殖生命科学科	54名
資源機能化学科	52名
大学院(他大学、他学部出身者)	
修士	10名
博士	1名
合計	214名

2)本年度物故者(令和2年度親潮掲載分)

正・準会員	81名
名誉、特別会員	1名
合計	82名

3)会員現在数(3月10日現在)

正・準会員総数	16,203名
物故正・準会員数	3,642名
正・準会員現在数	12,561名
(内準会員数)	(14名)
特別会員数	74名
会員数合計	12,635名

4)新入会員を含めた会員現在数(3月15日現在)

合計 12,849名

北水同窓会定期総会報告

令和2年度 編集部報告 (親潮発行)(資料2)

	号数	発行年月日	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
予算	315号	令和2年8月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
	316号	令和3年2月末	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,300	1,000,000	※1
	合計		64	16,600	2,000,000	
決算	315号	令和2年8月31日	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,300	917,565	※1
	316号	令和3年3月28日	本誌カラー 24頁 (内カラー7頁)	8,300	878,240	※1
	合計			16,600	1,795,805	

※1 印刷会社: ㈱三和印刷 印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む

令和2年度 組織部報告 (名簿会計)(資料3)

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,214	3,214	
	一般会計より繰入 受取利子	1,000,000	1,000,000	名簿積立金 5
	合計	1,003,214	1,003,219	
支出	次年度繰越金	1,003,214	1,003,219	
	合計	1,003,214	1,003,219	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 1,003,219円)

令和2年度 会計部報告 (資料4)

1) 一般会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,509,075	1,509,075	1550名 予算1700名
	一般会計より繰入	6,800,000	6,202,000	
	特別会計より繰入	3,000,000	3,000,000	
	親潮広告料	280,000	120,000	
	雑収入	100,000	120,821	
	合計	11,689,075	10,951,896	
支出	親潮印刷費	2,000,000	1,795,805	(資料2) 名簿・親潮発送含む 函館開催延期 ※
	通信・運搬費	2,000,000	1,812,277	
	総会旅費	100,000	0	
	組織強化費	700,000	114,000	
	ホームカミングデー経費	150,000	0	
	備品費	30,000	0	
	消耗品費	130,000	24,712	
	会議費	30,000	0	
	振替手数料	210,000	223,238	
	事務嘱託費	2,320,000	2,301,275	
	備人費	20,000	0	
	HP維持費	80,000	75,350	
	雑費	20,000	6,820	
	OA機器整備費	50,000	50,000	
	名簿会計へ	1,000,000	1,000,000	
	予年度繰越金	2,849,075	3,548,419	
合計	11,689,075	10,951,896		

収支差引額(令和3年度に繰越) 3,548,419円

(繰越金の内訳: 銀行預金 3,505,334円、現金 43,085円)

※新型コロナウイルスの影響により卒業式、本部役員会、総会を中止及び延期のため総会補助30万円、本部役員会補助7万円、卒業祝い品6万円は今年度の支出無し

2) OA機器整備費(積立)決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	130,807	130,807	
	一般会計より積立	50,000	50,000	
	合計	180,807	180,807	
支出	次年度繰越金	180,807	180,807	
	合計	180,807	180,807	

(繰越金の内訳 ゆうちょ銀行 180,807円)

3) 特別会計決算報告

	項目	予算額	決算額	摘要
収入	前年度繰越金	16,318,729	16,318,729	
	定期預金(マリンバンク)利息		672	
	合計	16,318,729	16,319,401	
支出	一般会計へ	3,000,000	3,000,000	
	次年度繰越金	13,318,729	13,319,401	
	合計	16,318,729	16,319,401	

○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定期貯金2口(新規)	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,939,401	
合計	13,319,401	

会計監査報告

北水同窓会の令和2年度における会計監査を実施した結果を下記のとおり報告致します。

記

1. 監査対象期間 自 令和2年3月11日
至 令和3年3月10日
2. 出納簿は、関係書類と対査の結果適正である。
3. 現金及び預貯金は、出納簿に照合し適正である。

以上

令和3年3月17日

監事 河原武則 

監事 関秀司 

令和2年度 役員改選案 (資料5) [○は新任]

会 長
横山 清 (昭35エ)
名誉会長
木村 暢 夫 (昭55ギ)
副 会 長
鈴木 賢 一 (昭36セ)
吉野 生 壮 (々37ゾ)
樋口 達 夫 (々50食)
代表理事
○尾 島 孝 男 (昭54化)
学内理事
川 合 祐 史 (昭55食)
足 立 伸 次 (々55ゾ)
山 羽 悦 郎 (々55ゾ)
工 藤 勲 (々57化)
関 秀 司 (々57化)
都 木 靖 彰 (々59ゾ)
岸 村 荣 毅 (々60化)
向 井 徹 (々61ギ)
龟 井 佳 彦 (々61ギ)
水 田 浩 之 (々61ゾ)
宗 原 弘 幸 (々61修ギ)
高 津 哲 也 (々63ギ)
安 藤 靖 浩 (々63化)
今 村 央 二 (々63ゾ)
大 坂 西 桂 一 郎 (々元ギ)
高 岡 木 力 (々元ギ)
山 田 織 生 (々元ギ)
田 中 啓 之 (々元化)
丸 山 英 男 (々元化)
澤 辺 智 雄 (々元食)
細 川 雅 史 (々2食)
山 崎 浩 司 (々2食)
東 藤 孝 人 (々2ゾ)
○小 林 直 人 (々3ギ)
○清 水 宗 敬 (々3ギ)
○宮 下 和 士 (々3ギ)
○浦 和 寛 (々3ゾ)
○工 藤 秀 明 (々3ゾ)
監 事
河 原 武 則 (昭43エ)
関 秀 司 (々57化)
学外理事
箕 田 嵩 (昭31ゾ)
高 島 優 (々33エ)
山 崎 文 雄 (々33ゾ)
米 田 義 昭 (々34セ)
小 祝 良 介 (々36エ)
大 割 了 (々37ギ)
繪 面 良 男 (々37セ)
河 村 章 人 (々37ゾ)
古 井 恒 弘 (々37ゾ)
麦 谷 泰 雄 (々37ゾ)

天下井 清 (昭39エ)
木 村 昇 (々40セ)
猪 上 德 雄 (々41セ)
上 平 幸 好 (々41ゾ)
岸 本 富 男 (々42ギ)
山 本 勝 太郎 (々42ギ)
池 田 勉 (々43ゾ)
仲 谷 一 宏 (々43ゾ)
高 橋 豊 美 (々44エ)
工 藤 昭 彦 (々44ゾ)
志 賀 直 信 (々44ゾ)
山 内 皓 平 (々44ゾ)
三 浦 汀 介 (々45ギ)
三 佐 川 稔 (々45ギ)
築 田 満 (々45化)
後 藤 晃 (々45ゾ)
原 彰 彦 (々46ゾ)
中 林 重 雄 (々47ギ)
目 黒 敏 美 (々47ギ)
近 江 政 斗 (々47食)
土 谷 俊 一 (々48ギ)
坂 本 幸 造 (々48食)
桜 井 泰 憲 (々48ゾ)
吉 田 正 人 (々48ゾ)
吉 野 威 (々49ギ)
飯 田 浩 二 (々51ギ)
平 石 智 德 (々51ギ)
増 田 宣 泰 (々51化)
矢 部 衛 一 (々51ゾ)
上 野 孝 雄 (々53ギ)
清 水 晋 二 (々53ギ)
蛇 沼 俊 二 (々53ギ)
上 野 久 仁 夫 (々53化)
備 前 悟 (々53化)
広 崎 淳 一 (々55ギ)
正 木 悦 郎 (々55ギ)
○安 宮 岡 秀 昌 (々55ゾ)
西 川 正 一 (々56ギ)
種 田 正 貴 司 (々56食)
藤 田 公 美 (々57ギ)
小 林 良 一 (々57食)
佐 藤 友 則 (々57食)
○高 木 省 吾 (々58ギ)
横 山 信 一 (々58ギ)
佐 藤 直 孝 (々58食)
今 野 伸 (々62食)
宮 崎 永 司 (平元ギ)
学外幹事
柳 町 琢 也 (平4化)
阿 部 海 太 (々5化)
鳥 海 滋 (々12資)
島 田 潤 平 (々23増生)
木 間 大 河 (々25海資)

地方理事
(稚内) 風 無 成 一 (昭41ギ)
(留萌) 祐 川 正 幸 (々48ゾ)
(紋別) 遊 佐 慎 太郎 (々52エ)
(網走) 葛 西 恭 博 (々53ギ)
(根室) 野 別 貴 博 (平8ゾ)
(釧路) 穂 積 明 (昭40ギ)
(旭川) 斉 藤 隆 司 (々46化)
(十勝) 梶 敏 (々44ゾ)
(苫小牧) 木 村 实 (々48食)
(室蘭) 矢 島 清 孝 (々45食)
(札幌) 林 和 明 (々38ゾ)
(札幌) 眞 田 篤 弘 (々43化)
(札幌) 小 野 寺 勝 広 (々56ギ)
(小樽) 木 村 司 (々61ギ)
(余市) 宇 藤 均 (々45ゾ)
(青森) 佐 藤 立 治 (々36エ)
(八戸) 関 川 順 悦 (々55ギ)
(秋田) 柴 田 理 (々55ギ)
(村山) 山 田 彰 一 (々40ゾ)
(庄内) 佐 藤 洋 (々54ギ)
(盛岡) 藤 本 勝 彦 (々61食)
(宮古) 山 本 敬 久 (々62ギ)
(釜石) 高 橋 禎 (々56ゾ)
(仙台) 稲 田 一 (平15海)
(石巻) 小 池 世 幾 敏 朗 (昭53ギ)
(気仙沼) 千 葉 健 朗 (々46ゾ)
(福島) 江 部 一 (々44ゾ)
(茨城) ○渡 辺 夫 (々47ゾ)
(栃木) 澤 田 守 伸 (々54ゾ)
(埼玉) 吉 川 晴 二 (々41ゾ)
(館山) 安 田 健 治 (々56食)
(千葉) 佐 藤 喜 雄 (々56ゾ)
(東京) 菊 本 肇 (々40ギ)
(神奈川) 金 庭 正 樹 (々57化)
(新潟) 大 塚 修 (々50ゾ)
(長野) 未 定 郎 (昭45エ)
(静岡) 木 嶋 武 賢 一 (々42セ)
(富山) 川 崎 裕 司 (々49ゾ)
(石川) 池 田 徹 (々54食)
(福井) 大 泉 徹 (々54食)
(愛知) ○兼 崎 英 勝 (々41セ)
(京都・滋賀) 澤 田 宣 雄 (々57ゾ)
(三重) 石 川 輝 (平2ゾ)
(大阪) 佐 々 木 雅 人 (昭56化)
(兵庫) 中 岸 明 彦 (平元ギ)
(和歌山) 丸 山 清 重 (昭55ゾ)
(鳥取) 山 本 荣 一 (々52ゾ)
(岡山) 鈴 木 伸 一 (々50ギ)
(広島) 羽 原 浩 史 (々55化)
(鳥根) 児 玉 太 一 (平12生)
(関門) 萬 年 信 一 (昭37エ)
(香川) 小 野 知 足 (々34ゾ)
(愛媛) 桑 原 彰 三 (々53ゾ)

第100回 北水同窓会定期総会報告

(徳島) 宮本孝則(平元ギ)
 (高知) 蒲原幸男(昭49ギ)
 (福岡) 村上憲男(〃51ギ)
 (佐賀) 高橋寛昌(平13海)
 (長崎) 渡辺康憲(昭51化)

(熊本) 安田広光(昭58食)
 (大分) 武田晴美(〃56ギ)
 (宮崎) 未定
 (鹿児島) 松岡達郎(昭52ギ)
 (沖縄) 渡辺利明(〃52ゾ)

(韓国) 李春雨(平3博ギ)
 (中国) 田元勇(〃22応博)
 (北米) 三浦明夫(昭53ゾ)

令和3年度 本部常任幹事直通電話番号

市外局番(0138)

幹事	長	○高津 哲也(昭63ギ)	40-8822	編集	部	○藤本 貴史(平12生)	40-5536
副幹事	長	向井 徹(昭61ギ)	40-8853			富安 信(平25海資)	40-8830
庶務	部	○山口 篤(平6ゾ)	40-5631	組織	部	○熊谷 祐也(平17資)	40-5560
		山本 将悟(平24資機)	40-5567			田城 文人(平18生)	40-8848
会計	部	○浦和寛(平3ゾ)	40-8850	事務局		吉田 秀美	42-3681
		別府 史章(平16資)	40-8802				

令和3年度 会計部予算案 (資料6)

1) 一般会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	3,548,419	1,700名見込み
	潮広告料	6,800,000	
	雑収入	160,000	
		100,000	
	合計	10,608,419	
支出	親潮印刷費	2,000,000	(資料7) 親潮送費(2回分)含む 函館開催 ※
	通信・運搬費	2,000,000	
	総会旅費	100,000	
	組織強化費	700,000	
	ホームカミングデー経費	150,000	
	備品	30,000	
	消耗品	130,000	
	会議費	30,000	
	振替手数料	230,000	
	事務嘱託費	2,320,000	
	備人	20,000	
	HP維持費	80,000	
	雑費	20,000	
OA機器整備費	50,000	積立 (資料8)	
名簿会計へ費	1,000,000		
予備	1,748,419		
	合計	10,608,419	

※総会補助30万円、本部役員会補助7万円、卒業祝い品6万円を含む。

2) OA機器整備費(積立)予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	180,807	
	一般会計より積立	50,000	
	合計	230,807	
支出	次年度繰越金	230,807	
	合計	230,807	

3) 特別会計予算案

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	13,319,401	
	合計	13,319,401	
支出	次年度繰越金	13,319,401	
	合計	13,319,401	

○特別会計資産内容

項目	資産額	摘要
郵便定額貯金2口	8,380,000	
銀行定期預金(マリンバンク)1口	4,939,401	
合計	13,319,401	

令和3年度 編集部予算案 (親潮発行) (資料7)

号数	発行年月日(締切り)	全頁数	印刷部数	印刷費	摘要
317号	令和3年8月末(7月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,100	1,000,000	※1
318号	令和4年2月末(1月10日)	本誌 32頁 (内カラー7頁)	8,100	1,000,000	※1
	合計	64	16,200	2,000,000	

※1 印刷会社:(有)三和印刷
印刷費には別刷り振替用紙代、消費税を含む。

令和3年度 組織部予算案 (名簿会計) (資料8)

	項目	予算額	摘要
収入	前年度繰越金	1,003,219	名簿積立金
	一般会計より繰入	1,000,000	
	合計	2,003,219	
支出	次年度繰越金	2,003,219	
	合計	2,003,219	

書評

エビとカニの博物誌

—世界の切手になった甲殻類—

池田 勉(昭43ゾ)

本書は、世界中のエビやカニを図柄とした300枚の郵便切手から著者の60年にわたる海洋生物研究者としての豊富な知識と経験をもとにそれぞれの種の分布、生態、人びとの暮らし文化との関りについて詳細に解説したユニークな博物誌である。著者が実際現地で体験したことや、収集した情報、思い出話もふんだんに盛り込まれ、本書ならではの充実した内容となっている。またこの300枚に描かれたエビ・カニは北極海に住む種から南極海、深海、陸上にすむ種など多岐にわたり、全体として動物地理学的な観点からも興味深い内容となっている。目次は、「1. 甲殻類の郵便切手と分類学」から始まり、以後、分類体系に沿ってエビ・カニを52の小グループ(科)に分け、「53. かに座の切手」でギリシャ神話や星占いの関係が最後に配置されている。本書で扱った各種のエビ・カニの分類学的な位置関係を知りたい読者のためには生物名索引(学名、和名)、分類体系表が付されている。お勧めの本書の楽しみ方は、まず頁の順序は無視して適当な頁を開き、現れた鮮やかなカラー切手を一幅の絵として観賞する。次いで添えられた解説をゆったりとした気分で読む。これを繰り返しているうちに、読者は身近にありながら全く知らなかったエビ・カニの世界に誘われ、かれらの棲む赤道下の灼けつく砂浜や凍てつき寒風吹きすさぶ海に思いを致す事だろう。一枚の切手に一つのストーリーがあるとすれば、300枚で300のストーリーが本書で楽しめることになる。

本書は年齢を問わず生物に興味を持つ人ならどなたでも楽しんで読んでいただけたらと思います。コロナ禍未だ終焉せず、外出制限や在宅勤務でストレスが蓄積する今日、本書は手軽に気分をリフレッ



大森 信(著)
築地書館、東京、203頁 ISBN978-4-8067-1622-8
2,000円(税別)

シュする格好の読物であると信じ、同窓諸兄弟にお勧めする次第です。

著者の大森 信(おおもり まこと)氏(昭35ゾ)は当水産学部を卒業後、米国ウッズホール海洋研究所、ワシントン大学大学院で学び、東京大学海洋研究所(現:東京大学大気海洋研究所)、米国スクリップス海洋研究所、ユネスコ自然科学局海洋科学部門に勤務、東京水産大学(現:東京海洋大学)教授を経て(一財)熱帯海洋生態研究振興財団の阿嘉島臨海研究所所長を務めた。日本プランクトン学会学会長やいくつもの国際学会誌を歴任。2002年にはNHK総合テレビより8回にわたって放送された「海・青き大自然」の総監修を、また2004年には映画「デープ・ブルー」の監修を行った。1970年日本海洋学会岡田賞受賞。2011年日本サンゴ礁学会学会賞受賞。著書・共著書に「動物プランクトン生態研究法」(共立出版)、「Methods in Marine Zooplankton Ecology」(Wiley Interscience, NY)、「蝦と蟹」(恒星社厚生閣)、「サクラエビ:漁業百年史」(静岡新聞社)、「サンゴ礁修復に関する技術手法」(環境省)、「海の生物多様性」(築地書店)などがある。

「食材もってけ市」が 水産学部厚生会館で実施されました!

前幹事長 宮澤 晴彦(昭53ギ)



写真1:厚生会館前に並ぶ学生の長い列

今春、4月25日の日曜日に、水産学部厚生会館において「食材もってけ市」が開催されました。この取組は、中小企業家同友会の皆さんを中心とした「実行委員会」の主催によるものであり、これに本学部の学生、教員、事務職員(学生係等)、生協職員等が協力する形で行われました。本同窓会として、この取組に参加したわけではありませんが、私個人は準備段階からこれに参加・協力してきましたので、その内容や当日の様子等を会員の皆様にもお伝えしたいと思います。

いわずもがなのことですが、コロナ禍の中で学生たちは大きなマイナスの影響を今も受け続けています。この取組は、そうした困難を抱えている学生たちに、食料品等を無償で配布し、彼らを励ましていこうというものです。食料品等は多数の企業や個人が寄付し

てくれました。寄付者の中には、トラピスチヌ修道院も含まれています。修道女の皆さんは、「コロナ禍で苦しむ市民のために何かお役に立ちたい」と考えていたところに、もってけ市の実行委員会から声がかかり、大変喜んで食材提供に応じてくれたとのことでした。

準備は4月23日(金)の15時から行われ、まず常温保存できるレトルトカレー、飲料、缶詰、カップ麺、袋麺、米、菓子類、調味料、乾物類等が大量に搬入され、生協食堂の各テーブルにそれらの段ボールが積み上げられていきました。会場内は人が滞留して「密」が生じないように、一方通行方式としました。学生たちは正面入り口から入り、食堂内を一周しながらテーブル上の食料品等を自由に取り(商品毎に1人・1~数個までといった制限有り)、裏口から出ていくというスタイルで

す。食堂の裏は草ぼうぼうでしたが、事務職員の方が草刈り機できれいに草を刈り、通路を作ってくれました。

当日は朝8時から受け入れ準備に当たりました。冷凍食品や生鮮野菜、生活雑貨等が新たに運び込まれ、段ボールの開梱、テーブル上への商品出し、受付コーナーの設営等の作業が、スタッフの手で手際よく進められていきます。開店時間の10時が近づくと、厚生会館前には学生たちが集まり、長蛇の列ができました(写真1)。

入場は場内で「密」が生じないように、1回当たりの人数を絞りました。1つのグループの場内での動きがほぼ終了する頃、次のグループを入場させるというやり方です。この方法だと時間はかかりますが、開店時間は10時から12時までとかなり余裕がありますし、何よりコロナ対策は欠かせません。写真2のように場内は比較的空間に余裕があり、入場者の流れもスムーズでした。

終了後、スタッフ全員で記念写真を撮りました(写真3)。御覧のように、実行委員やボランティアの学生等、スタッフとして働いたメンバーは30名を超えています。食料品等を受け取りにきた学生は、220余名でし



写真2:会場内の様子

た。これは、当実行委員会がこれまで函館大学や北海道教育大学・函館校で行ってきた「もってけ市」の参加者数を上回る、最多人数だったと聞いています。もちろん、抱えきれないほどの食料品等を手にした学生たちは大喜びでした。学生の声については、後掲の感想文をご覧ください。

このように、「もってけ市」の取組は大成功でした。もしこのような取組が、今後再び水産学部で行われるならば、同窓会としても何らかの支援を行えないか…と感じた次第です。



写真3:全員で記念写真撮影

北海道大学函館キャンパス事務部・学生担当

石水さんより一言

今回の「もってけ市」では、準備段階からカップ麺や缶詰などが大量に搬入されたうえ、当日にも生鮮食品や生活雑貨が持ち込まれ、並べ方に困るほどの量でした。私も食材配布のテーブルにつきましたが、参加学生からは「こんなにももらえるとは思っていなかった、すごく助かる」という声を耳にしました。

コロナ禍でアルバイト等の収入が減り、生活が苦しい学生への助け、また励みになったと思います。今回企画された皆様、またボランティアの皆様のご協力に感謝いたします。

「もってけ市」に参加して

水産科学院修士2年 資源生物学講座 松石研究室
田外 香緒里

「通路両サイドのずらりと並んだテーブルのそれぞれから1つなんでも持って行って良いてホント？ホントに良いの？」というのが最初に会場に足を踏み入れた時の正直な感想でした。テーブルいっぱい食材や日用品が並べられていてその種類と量の多さに驚きました。そうそうそれが欲しかったの！というものが多く、会場を後にする頃には両手はふさがり、持って帰るのが大変だと嬉しい悲鳴を上げるようになっていました。

缶詰やレトルト食品、米、調味料、すぐに食べるのでできるレタスやクッキー、ゼリー、洗剤などをいただいていたのですが、なかなか普段高価で買えないものや日持ちのするものを多くいただけたことがとても嬉しかったです。コロナによってアルバイトなどの収入減少や自炊が必要になっている今、必要なものをいただける貴重な機会でした。ただ、3kgもするレトルトカレーをいただいていたときには、これどうしようと思っていただのですが、カレーをアレンジするという普段なかなか経験できないことができたので楽しかったです。

今回「もってけ市」の参加感想を自由スタイルで書かせていただく機会をいただけたので、折角と思い、

友人や後輩などに感想を聞いてみることにしました。研究室や学年などの違いによってどう感じていたのか疑問だったのですが、主に自炊・支援・交流3つの視点で感想をもらうことができました。

自炊の機会の増加する中で、調味料や米、レトルト食品をもらえたことで料理のモチベーションになった人、これを機に自炊をして食生活を見直そうと感じた人、重くてあまり買えないものをただ嬉しかった人、研究室でさっと食べられるものをもらったと喜んでいたり人などがいました。普段あまり意識していませんでしたが、自分自身が、コロナ前コンビニ食や外食に頼りがちだった生活から麺類のローテーションという生活になっていたのも、確かに自炊や食に意識を向ける良い機会になったなあと感じました。

支援と括ってしまいましたが、日持ちがするもの、買うと持って帰るのが大変だから買うことをやめていたもの、高く買えないものがもらえたことは嬉しかったとの回答をもらいました。車を持っていないとなかなか買い物が大変な中で、米や油等をもらえたことは私自身大変嬉しかったです。また、アルバイトの収入が減ったため、お菓子やジュースといったものに出費することを控えていた人も多かったのではないかと思います。そんな中でちょっと良いクッキーやゼリー、紅茶などをいただけたのはお家時間を楽しめるきっかけになっているんじゃないかと思います。

交流については、特定の人としか連絡しない今、地域の人と交流ができたことや「もってけ市」を機会に地域の生産者と出会うことができたなどの新たな出会いに対する喜びの感想をもらいました。この交流という視点については、盲点でした。研究室によっては調査で外部の方と交流のある学生、調査がなくなり全く外部の方と交流する機会がなくなった学生と別れてしまったことは知ってはいましたが、孤立していたというある学生の感想を聞いて、思ったよりも学生間でもコロナ禍での生活に差ができていたのだと痛感しました。

最後に、とりあえずもってけと様々なものを提供して下さった方、ボランティアとして製品の説明やら会話やらをしてくださった方に感謝申し上げます。本当に楽しかったです。

□学位取得者【令和2年度3月取得】

阿部 高志	遡河性サケ属魚類のシナプス開口放出関連分子に関する分子神経学的研究
五味伸太郎	網漁具の状態推定と制御に関する基礎的研究
松井 菜月	日本沿岸に生息するネズミルカ <i>Phocoena phocoena</i> の成長, 成熟と食性
Md.Rashidul Islam	Studies on the industrial applications of gelatin and peptide produced from sturgeon by-products (チョウザメの副産物から得られるゼラチンとペプチドの産業応用に関する研究)
高谷 直己	慢性炎症疾患の予防基盤となるカロテノイドおよびアポカロテノイドの細胞機能調節作用に関する研究
堀内 萌未	二ホンウナギの性分化機構に関する研究

□学位取得者【令和3年度6月取得】

Aranyakanont Chak	Studies on the mechanism underlying maturation-inducing steroid production during oocyte maturation in Nile tilapia, <i>Oreochromis niloticus</i> (ナイルティラピア卵成熟誘起ステロイド産生機構に関する研究)
-------------------	--

□令和3年度 卒業者(学部)・修了者(修士・博士)の就職先一覧

学部

国家公務員(経済産業省、厚生労働省)／地方公務員(都道府県、市町村)／北海道庁／認可法人日本銀行／東海大学海洋学部博物館
株式会社モンテール／北海道漁業協同組合連合会／札幌みらい中央青果株式会社／日本水産株式会社／大和紡績株式会社
株式会社湖池屋／株式会社日本海洋生物研究所／北海道電力株式会社／株式会社ニトリ／株式会社資生堂／株式会社ホクリョウ
株式会社シジシージャパン／イオン株式会社ほか

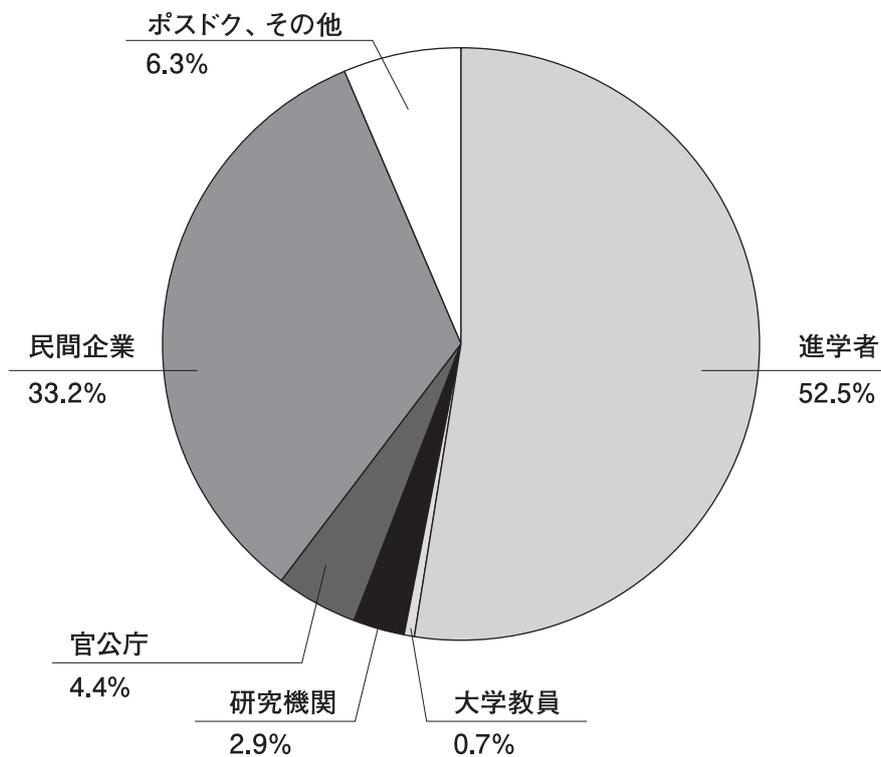
修士

国家公務員(水産庁)／地方公務員(都道府県、市町村)／国立研究開発法人水産研究・教育機構／国立研究開発法人土木研究所
地方独立行政法人青森県産業技術センター／独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構／株式会社ナシオ／キッコーマン株式会社
マネックス証券株式会社／株式会社極洋／日本郵船株式会社／丸大食品株式会社／日産自動車株式会社／日立化成株式会社
日本ハム株式会社／株式会社新進／サッポロビール株式会社／株式会社日立製作所／株式会社商船三井
キリンホールディングス株式会社、マルハニチロ株式会社／味の素冷凍食品株式会社／森永乳業株式会社／日本製粉株式会社
日鉄ソリューションズ株式会社／伊藤ハムデイリー株式会社／いなば食品株式会社／株式会社ニチレイ／株式会社セコマ／北海道新聞社
日本通運株式会社／ハウス食品株式会社／株式会社三井住友銀行／ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社／株式会社湖池屋
日本水産株式会社／株式会社ニトリほか

博士

地方公務員（都道府県、市町村）／北海道大学大学院水産科学研究院／水産科学研究院南海水産研究所／北海道立総合研究機構
国立研究開発法人水産研究・教育機構／標津サーモン科学館／東洋水産株式会社ほか

進路状況



□ 会員異動

○令和3年4月1日付 就任・採用

清水 宗敬	北方生物圏フィールド科学センター教授(学内流動教員)に就任
高谷 直己	大学院水産科学研究院助教に採用
亀井 佳彦	附属練習船おしよる丸准教授(船長)に就任
坂岡桂一郎	附属練習船うしお丸准教授(船長)に就任
星 直樹	附属練習船おしよる丸一等航海士に就任
高野 拓也	附属練習船うしお丸操機長に就任
小島 悠児	附属練習船おしよる丸三等航海士に採用
黒須 勇斗	附属練習船おしよる丸機関員に採用
丸山 颯斗	附属練習船うしお丸機関員に採用

会員死亡通知

福原 暁	(昭13ギ)	令和2年12月14日	ご家族様より
内田健之助	(昭16ギ)	令和2年11月 9日	ご家族様より
氏家 二郎	(昭24ギ)	令和3年 3月 5日	坂井 美久(昭30ギ)様より
山本 潔	(昭24ゾ)	平成30年 6月	ご家族様より
穴澤 邦雄	(昭26セ)	令和3年 4月25日	北海道新聞より
佐伯 照明	(昭28セ)	令和2年11月 3日	ご家族様より
須能 正美	(昭28セ)	令和2年12月26日	ご家族様より
三浦 庸夫	(昭28セ)	令和3年	ご家族様より
河替 力	(昭28ゾ)	令和3年 2月20日	ご家族様より
川端 昭治	(昭28ゾ)	令和3年 6月 7日	ご家族様より
庄司 恒夫	(昭29セ)	令和3年 4月	四方 純(昭43食)様より
白瀬 知和	(昭30エ)	令和2年11月27日	ご家族様より
大谷 哲也	(昭31セ)	令和3年 2月20日	ご家族様より
田沢 忠良	(昭33セ)	令和元年12月22日	葛西 英一(昭33セ)様より
阿部 俊行	(昭34エ)	令和2年 9月	ご家族様より
今野 郁三	(昭34ゾ)	令和2年	射場 隆雄(昭34セ)様より
瀬戸山幸男	(昭35セ)	令和2年 4月 1日	ご家族様より
守屋 桂二	(昭35セ)	令和3年 5月 5日	山田 稔(昭35セ)様より
深谷 勲	(昭36セ)	令和2年11月25日	兼崎 英勝(昭41セ)様より
平野 勇夫	(昭36ゾ)	令和3年 4月18日	角田 靖雄(昭36セ)様より
浜田 孝	(昭37ゾ)	令和3年 4月 8日	ご家族様より
竹内 恒	(昭39エ)	令和3年 7月21日	坂本 浩輔(昭39エ)様より
石津 裕	(昭39セ)	平成30年10月11日	三栗 茂(昭39ギ)様より
國分 清洋	(昭39セ)	令和3年 4月28日	ご家族様より
塚崎 清司	(昭39セ)	令和3年 7月12日	ご家族様より
松原 治	(昭39セ)	令和3年 4月12日	ご家族様より
加藤 善也	(昭40セ)	令和2年12月21日	ご家族様より
矢野 彰	(昭41ゾ)	令和2年 6月	ご家族様より
浦田 弘行	(昭42セ)	令和3年 3月14日	ご家族様より
紺野 勲	(昭42セ)	令和3年 4月 1日	ご家族様より
小山 章夫	(昭42ゾ)	令和2年11月18日	ご家族様より
石田 正明	(昭43化)	令和3年 4月13日	ご家族様より
今田 和史	(昭45ゾ)	令和2年10月 8日	ご家族様より
相山 忠男	(昭46食)	令和3年 5月12日	伊藤 博司(昭46食)様より
岡本 洋一	(昭48ギ)	令和2年11月12日	大阪府支部様より
中浦 恒雄	(昭49化)	令和3年 3月13日	品川 高儀(昭49化)様より
白井 滋	(昭54ゾ)	令和2年 9月 9日	東京農業大学生物産業学部様より
鎌田 和幸	(昭56化)	令和3年 2月14日	竹島 博(昭56化)様より
浅川 学	(昭56食)	令和3年 6月19日	川合 祐史(昭55食)様より

親 | 潮 | 投 | 稿 | 規 | 定

【寄稿、支部・会員便り、会員の受賞、ご案内など】

一つの投稿につきA4版・1ページ(2000字程度)までとする。この制限以上の長文あるいは連載を希望される場合は2号分までとする。写真を入れる場合、その分の文字数が減る。また写真はホームページに掲載することもできる。原稿は、同窓会宛に封書で郵送するか、同窓会のメール宛に送付することとする。

【同窓生の声】

各種活動や出版物の告知・紹介、本誌への感想など。個人的な連絡は対象とせず、1記事につき300字以内。同窓会あてのメール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けます。写真は入れられません。

[編 集 後 記]

連日全国的な猛暑の日々で、北海道も30℃を超える夏らしい日々が続いております。東京オリンピックの開催には賛否両論ありましたが、TV画面を通した応援に日々熱くなった皆さまも多いのではないのでしょうか。

今号では、2020年に締結した北海道大学水産学部と青森県東通村との連携協定について特集を組んでおります。太平洋と津軽海峡の両方に面する東通村は自然環境・水産資源に恵まれ、水産研究の場としても大変魅力的です。私も若輩者ながら新幹事長の高津先生にお声がけ頂き昨年東通村を訪れました。現地ではその環境の豊かさに触れる一方で、昨今のサケマス類やイカ類の漁獲の落ち込みといった悩みを直接伺いました。本学との今後の密接な連携を期待したいです。

今夏実施予定のホームカミングデーでは、元水産庁長官・現(一財)東京水産振興会理事の長谷成人さま(水産増殖学科 卒)をお招きし卒業生・在校生のつどいとしてご講演をお願いする予定です。昨今の社会状況を鑑み、対面もしくはオンラインでの参加が可能なように調整中です。どちらの方法でも奮ってご参加ください。参加の方法などはHPを通じて情報を更新致しますのでご確認ください。また前号でもご案内しましたが、ご講演の後には北水同窓会100周年記念総会準備状況報告・検討会を開催予定です。記念すべき同窓会100周年の総会に向けて、多くのOB・OGの皆さまと情報を共有したいと考えております。こちらもぜひご参加下さい。

また今号では、函館キャンパスで行われました「食材もってけ市」について、前幹事長の宮澤先生と在学中の学生さんよりご寄稿を頂いております。本イベントではコロナ禍で生活に困難を抱える学生に食料品などを無料で寄付頂くなど、本学学生にも多大な支援を頂いております。ぜひ記事をご覧になって活動について知って頂き、今後のイベントの開催にも注目頂ければと思います。

今年度第2号(通算318号)の原稿の締め切りは、2022年1月14日(必着)とさせていただきます。寄稿につきましては、郵送もしくは電子メール(hokusuialumni@gmail.com)にて受け付けております。その他、支部報告や同期会報告、著者の紹介など、多くの原稿をご投稿下さいますようお願い申し上げます。なお、親潮では同窓の方々との交流形態として「同窓生の声」の広場を設けております。また、本誌に対するご意見やご感想なども募集しております。詳しくは投稿規定をご参照ください。

また、支部総会や同期会の開催時の写真や開催案内を北水同窓会のホームページ(<http://hokusui.net/>)にて掲載しておりますので、是非ご覧ください。

編集幹事/富安 信(平25海資)

令和3年9月発行

北 水 同 窓 会

〒041-8611 函館市港町3-1-1

TEL & FAX.0138-42-3681

E-mail:hokusuialumni@gmail.com



株式会社 釣八

URL <http://www.tsuru8.co.jp/>

よく間違えられますが、「つるはち」って読みます。

社長の名前が「つるみ」だから。

世界中の海から、イカ、赤魚、サバ等なじみのある水産物を、

いま、求められるかたちにして、お届けできるように奮闘努力刻苦勉強

代表取締役 釣見 泰之(昭和59年 漁業学科卒)

【水産学部卒業社員】 土井 倫行(昭和60年卒) 奥田 和人(昭和60年卒) 倉部 徹(昭和60年卒)

本社

〒104-0042 東京都中央区入船3-8-7 ザ・ロワイヤルビル2F

TEL03-3297-8883 FAX03-3297-8885

八戸支店 〒031-0082 青森県八戸市常海町13-2 サンデュエル内丸1203 TEL 0178-71-3488

銚子支店 〒288-0041 千葉県銚子市中央町9-16 中央町ビル3F TEL 0479-25-8822

大阪支店 〒553-0001 大阪府大阪市福島区海老江2-2-5 SYDビル301 TEL 06-6131-8418

福岡支店 〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3-18-28 フクオカビル7F TEL 092-401-8828

豊洲:(株)釣十(マグロ仲卸) 中国:大連釣八(水産物加工)

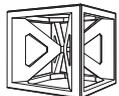
関連会社 アメリカ:ロスアンジェルス:フィッシングエイト タイ:バンコク:釣八タイランド

人工魚礁による水産資源の保護・増殖に貢献します

海洋土木株式会社

〒142-0043 東京都品川区二葉 2-1 1-5

代表取締役 木實谷浩史 (54才)
取締役副社長 石井直志 (49才)
専務取締役 幡宮輝雄 (57才)
青森営業所長 山口伸治 (49才)
北陸営業所長 魚住昭文 (52才)
札幌支店部長 日和久典 (平6才)



FP魚礁



カルベース付き
FP 1.5G



オクトム

余市
コンブ・アオサ・フシスジモク

苫小牧
ミスダコ産卵

遠別
クロソイ・エゾメバル

@kaiyodoboku.jp



<https://www.kaiyodoboku.com>

Instagram kaiyodoboku



株式会社 竹田食品

代表取締役 竹田 寿広

営業所: 札幌・東京・大阪・福岡

本社工場: 北海道函館市浅野町3番10号

TEL: (0138) 43-1110(代)

HP: <https://takeda.hakodate.jp/>



竹田食品の味

まぜて待つだけ!
「つくって食べよう 松前漬」
シリーズ全8種 2021年5月発売

交通事故、労働災害、医療過誤、倒産、債務整理、サラ金破産
個人再生、未払い残業代請求、離婚、相続、遺言、成年後見

相談料は全て無料です

吉原法律事務所

札幌弁護士会 弁護士 吉原美智世
(昭和48年増殖学科卒業)

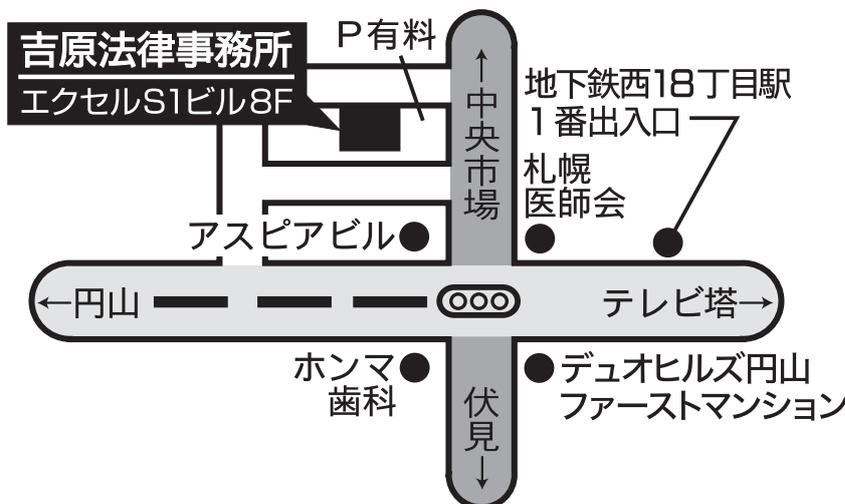
お気軽にお問い合わせ下さい

TEL 622-7963 FAX 622-8414

札幌市中央区大通西20丁目2-20(エクセルS1ビル8F)

(交通) 東西線西18丁目地下鉄1番出口

(E-mail) lawyer@yoshihara-lawoffice.jp



営業時間においでになれない方はご相談下さい。